

# 蛭ヶ谷の田遊び

蛭ヶ谷地区の蛭見神社で2月14日、鎌倉時代から伝承されている国指定重要無形民俗文化財「蛭ヶ谷の田遊び」が執り行われました。

神事では、五穀豊穡と子孫繁栄を願い、「はた引き」「田打ち」など農耕の様子を模した計16演目が、燃えさかるかがり火の前で演じられました。

天地と四方の悪霊を追放する結界の作法とされる本刀振り・もどき・長本刀振り・木長刀振り・杵振りと続く呪師芸で始まる神事は、夕刻から深夜12時ごろまで約5時間にわたり奉納されました。

番外の「矢納め」から「蓬莱山」までの18演目を持つ「蛭ヶ谷の田遊び」は東海地方の多彩な田遊びの中でも、ここだけの特異な演目がいくつもあります。

凍てつく寒さの中、蛭ヶ谷地区の青年15人は、代々受け継がれてきた神事芸能を厳かに演じ切りました。音曲のない静寂の中、白い息を吐きながら黙々と演じる姿に、集まった観衆はすっかり魅了されていました。



音曲のない静寂の中、燃えさかるかがり火の前で\*地元青年がそれぞれの役を演じた。

## 県指定無形民俗文化財

# 一幡神社の御神神事

菅ヶ谷地区の一幡神社に伝わる御神神事が、2月6日から8日までの3日間にわたり行われました。

この神事は、毎年2月に五穀豊穡を願われる古例祭の別名で、二十八名と呼ばれる28軒の家が主催者となり執り行われる宮座行事です。

28軒が2軒1組となり1番目から14番目までに分かれ、14年に1回、その組みが年番となり「本名」と「柑名」の役割が当てられます。

今年の神事では、1年間本名を務めた高塚友希さん宅から、神事の従事者たちが御神様、御本飯、神事の道具を担ぎ、榊の葉をくわえて一幡神社へ向かいました。

神社では、菅山小学校の児童が「お神の舞」を披露するとともに、式典が執り行われました。

この後、高塚さんから新たに本名となる逸見敬一さんに御神体の餅が渡され、一幡神社の境内に設けられた御飯屋に祭られました。



本名を務めた高塚 友希さん

1年間を通じて大変貴重な経験をさせていただきました。御神様を大事に守りながら、1年無病で過ごせたことに感謝します。



本名を引継いだ逸見 敬一さん

仕事で県外に出ているですが、決められている儀式を怠らずに頑張ります。来年、きれいな御神体のお餅を披露できるように、一生懸命役を努めていきます。



大切な御神体に息を吹きかけないようにするため榊の葉を口にくわえ、一幡神社へ向かう。